

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

アメリカから来た 気仙沼のアイドル



ステファニー ウォルマン さん

アメリカ バージニア州出身 気仙沼市在住
外国語指導助手
SCK GIRLS 産地直送気仙沼少女隊 メンバー

—どんな子ども時代でしたか。

明るく元気な子どもで、幼い頃から歌ったり踊ったりするのが好きでした。母がハロウィン用に私と妹にコスチュームを手作りしてくれたので、毎年この季節が待ち遠しかったです。そして、高校生の頃には母に裁縫を教わり、自分で作るようになりました。他には兄妹とアニメを観るのが好きでした。セーラームーン、ポケモンや遊戯王を観ていました。高校生になると、幼い頃には気付かなかった日本の昔の衣服や文化をアニメから学び、独学で日本語を勉強するほど興味を持つようになりました。

—来日の経緯を教えてください。

大学進学後、選択科目に日本語を見つけ、迷うことなく選びました。2年間学んだあと、大阪の関西外国語大学に半年間留学しました。初めての関西弁に戸惑いましたが、学業も生活も楽しい日々でした。満開の桜の下で実際にお花見を体験できたときは、夢がひとつ叶ったと感激しました。帰国前には「大学を卒業したら、絶対日本に戻ってくる」と決心し、以前から知っていたJETプログラム*に応募したところ、採用されました。気仙沼市でALTとして働くことになり、2018年8月に再来日しました。赴任先へ向かう途中、車窓から輝く海を見て感動し、同時にこの地に温かく迎えられた気がしました。(*JETプログラムとは、外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業)

—気仙沼での日々はいかがですか。

住んで3年になりますが、東日本大震災から10年経ったこの町は、多くの場所が新しく生まれ変わっています。どう聞いたらいいかわからないので、震災体験について個人的に質問することはありませんが、気仙沼の人たちはstrong, hopefulそしてpositiveだと感じます。希望を持って前に向かって生きていますね。市内の小学校と中学校で英語を教えています。子どもたちは明るくていつも笑顔で話してくれて、本当にかわいいです。やりがいの持てる仕事です。それから、気仙沼には新鮮な魚介類があることも外せませんね。

—SCK GIRLSこと産地直送気仙沼少女隊は「震災から立ち上がり、地元気仙沼に活気と元気を取り戻そう」と、東日本大震災後



SCK GIRLSのパフォーマンス

2011年11月に結成されたグループで、メンバーが入れ替わりながらも10年にわたって気仙沼から元氣と笑顔を届けてくれています。そのご当地アイドルグループにアメリカ出身のステファニーさんが加入されたきっかけや活動についてお聞かせください。

市内のダンススクールへ通っていた2019年の始め頃、講師にSCK GIRLSのオーディションを受けてみたらと勧められました。「えー、わたしが?」と驚いたのですが、気仙沼では誰もが知っているアイドルグループのメンバーになれるのなら!とダンスと歌の試験、それと面接を受けました。合格通知をいただいた時は、言葉では表せないくらい嬉しかったです。

SCK GIRLSでは、ステフィーの名前で活動しています。私の初舞台はなんと!トラックステージ(側面が開き、荷台がステージになる大型トラック)でした。アニメで見たのと同じトラックステージでパフォーマンスを披露できるなんて夢みたい、間違えないようにとか、いっぱい笑顔を届けようと思いながら踊っているうちに終わってしまいました。あつという間のひとときでした。忘れられないのは、東京の上野公園でのパフォーマンスです。憧れの東京で、気仙沼や南三陸に住む私たちが元氣いっぱい頑張っていることを知っていただけた貴重な機会でした。さらに、私が初めてマイクを持って歌うことができたステージでもありました。このアイドル活動で、四方からライトを浴びて、ペンライトを掲げて応援してくれるファンの方々と一体感を感じたり、掛け声のやり取りをしてエネルギーを交換することは、本当に楽しいです。

—ステファニーさんの未来図を教えてください。

もう少し気仙沼で過ごします。学校の子もたちとまだ離れたくないです。それにSCK GIRLSの衣装をデザインして、メンバー全員分を手作りする予定です。SCK GIRLSとして、ファンのため、そして復興支援に協力して下さる方々のために、オンラインコンサートだけではなく、みなさんを前にして、私たちの笑顔を直に届けたいです。それをせずに卒業はできない!と考えています。

その後は、大好きな日本で芸能活動をする夢を実現したいです。オーディションをたくさん受けるつもりでいます!

「みやぎ外国人相談センター」から

みやぎ外国人相談センターに寄せられた相談事例を紹介します。

Q 病院にかかりたいのですが、日本語でのやりとりに不安があります。みやぎ外国人相談センターではどんなサポートをしてくれますか？

A 外国語対応可能な医療機関がいくつかあるので、それらの病院等をご紹介することができます。また、行きたい病院が決まっている場合は、その病院と調整の上、外国人支援通訳サポーターの紹介や問診票記入などのサポートを行います。決まっていない場合は、受診する病院を探すところからお手伝いをします。

外国人支援通訳サポーターとは

宮城県国際化協会では、県内に暮らす外国人が安心して医療や公的なサービスが受けられるよう、医療機関や公的機関からの要請に応じて通訳サポーターの紹介を行っています。
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、現在は外国人支援通訳サポーターが現場に赴いて活動することを休止し、電話やWeb会議システムを利用した遠隔通訳対応を行っています。詳細は、当協会までお問い合わせください。

みやぎ外国人相談センター TEL 022-275-9990

- 月曜日～金曜日 9:00～17:00
- 対応言語：中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語

みやぎ外国人相談センター
宮城外国人咨询中心
미야기 외국인 상담센터
Miyagi Support Center for Foreign Nationals
Miyagi Sanggunian Sentro para sa mga Dayuhan
Trung tâm văn người nước ngoài Miyagi
विदेशी नागरिकका लागि को परामर्श केन्द्र
Pusat Konsultasi Untuk Orang Asing Miyagi

毎日生活のなかで、悩みごとや困ったことがあつたら、お気軽にお電話ください。
If you encounter difficulties in your daily life, please contact the Miyagi Support Center for Foreign Nationals.

日本語を含む
13言語で
対応します。

中国語 韓国語 日本語を含む 英語 タガログ語
中文 한국어 13言語で English Tagalog
ベトナム語 ネパール語 対応します。 インドネシア語 ポルトガル語
Tiếng Việt नेपाली Indonesia Português
スペイン語 ロシア語 タイ語 ヒンディー語
Español русский Thai हिन्दी

協力：仙台弁護士会・宮城県行政書士会
Cooperation: Sendai Bar Association / Miyagi Administrative Scrivener Association
曜日・時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00 / Monday - Friday 9:00a.m. - 5:00p.m.
TEL 022(275)9990

多文化 なトピック

災害時に役立つ！ 多言語情報アプリ・Webサイト

地震、台風、豪雨や噴火など災害や気象に関する情報を発信するWebサイトやアプリがありますが、多言語で発信されているものをいくつかご紹介します。

Webサイト/アプリ	言語	情報	QRコード/Twitter
気象庁	14言語	地震・津波 風・雨・雪 噴火 土砂災害・浸水害・洪水の危険度	
NHK WORLD-JAPAN	18言語	災害に関すること ニュース	
Safety Tips (観光庁)	14言語	地震・津波 風・雨・雪 噴火 避難所	
Japan Official Travel APP (日本政府観光局)	4言語	地震・津波 風・雨・雪 噴火 避難所、電車・交通	
goo防災アプリ	4言語	避難所 災害への備え 安否情報	
仙台市危機管理局	2言語	仙台市内の災害 地震・津波 雨・風	#sendai @sendai_kiki2
仙台市災害多言語 支援センター (SenTIA)	4～6言語	大きな災害が発生したときに設置され、 仙台市内の情報を提供しています。	



教育現場における多文化理解セミナー (イスラム圏児童生徒のケースを中心に)を開催しました

近年、パキスタンやアフガニスタンなどイスラム圏にルーツを持つ児童生徒が増加しています。ウルドゥ語などの母語で支援を行える人材がほとんどおらず、また日本社会においてイスラム文化に対する理解が限られていることもあり、学校側ではイスラム圏の児童生徒や保護者とどう向き合っていけばよいのか手探り状態で、そのノウハウの構築にも至っていません。

このセミナーは、小中学校の先生等を対象にパキスタン人を中心としたイスラム圏児童生徒について理解を深め、教育現場における対応力の向上を目的に8月20日にオンラインで開催し、40名ほどの参加がありました。参加申込みと合わせて事前アンケートにご協力いただきましたが、学校でのお祈り、給食、ラマダン(断食)、制服、男女の別などなど様々な課題、事例が寄せられました。

はじめに、関東学院大学准教授の山下里佳さんから在日パキスタン人理解につながる基礎情報、イスラム教の概略などについての説明があり、続いてパキスタン出身で富山県の小中学校で学んだ亜久楽夢ウスマンさんの体験談をお聞きし、最後に福島県郡山市の小中学校でパキスタン人児童生徒の支援を行っている藤岡裕子さんの支援事例を発表していただきました。事前アンケートの課題や事例にも触れる形で進められ、たくさんヒントや具体的な対応策を共有することができました。

MIA日本語講座だより

例年、MIA日本語講座ではニューカマーのための生活適応支援プログラムを開催しています。今回は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「感染症予防について学ぶ会」を初級1・2クラスで実施しました。

各クラスの受講生の母語に対応した感染症予防についての資料を準備し、やさしい日本語で説明をしました。説明を聞いた後、有効な手洗いの仕方学ぶため、仙台市保健所よりお借りした「手洗いチェッカー」を使い、手洗いの効果を確認しました。汚れとなる特別なローションを手塗りに塗り、普段通りの手洗いを行ってからLEDの専用ライトの下に手をかざすと、青く光っているところが洗い残し部分だとわかります。

念入りに洗ったはずなのに、指の間や親指に近い手の甲、それと手首に洗い残しが見られました。そんな中、母国で看護師をしていた受講者は1回の手洗いで完璧に汚れが落ちていて、クラスメイトから「さすが!」と称賛されていました。

日本語で学び、そして学んだことを体験することでさらに理解が深まったことでしょう。受講者の生活の面でお役に立てればなによりです。



手洗いチェッカーで汚れを確認

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「まんが クラスメイトは外国人/多文化共生20の物語/入門編/課題編」

編者：「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会 まんが：みなみななみ

発行：明石書店

この「まんが クラスメイトは外国人」は、現在3冊あり、最初の「多文化共生20の物語」は日本に暮らし、共に生活している20人の外国につながる子どもたちのお話です。次の「入門編」は、とある中学校を舞台に日本人と外国につながる生徒たち、教師、地域とのつながり、そして多文化共生を目指しているはずの日本の姿を20話で伝えています。最後の「課題編」は、ハーフ・ダブル・ミックスルーツの話題を含め、多文化共生の前に立ちはだかる矛盾や壁となるテーマを10話紹介しています。

あとがきに「子どもたちのことばがとても胸に残っています。それは、『こんな思いをしているのは、自分一人じゃないことがわかって安心した』というものです」との一文がありました。実話を再現した内容も含まれているそうです。

この夏行われた東京オリンピックでは、外国にルーツを持つ選手も大勢活躍しました。真の多文化共生とは何なのか、どうすれば誰もが暮らしやすい社会になるのか考えるきっかけを与えてくれる3冊です。中高生にも身近に感じ、理解してもらいやすいまんがになっています。ぜひご一読下さい。



宮城県内の在留外国人の状況

宮城県の在留外国人は、2020年12月末現在22,890人で、東日本大震災が発生した2011年以来9年ぶりの減少となりました。現在、世界中で新型コロナウイルス感染症の感染拡大による混乱が続いていますが、県内の在留外国人数にもその影響が強く表れました。

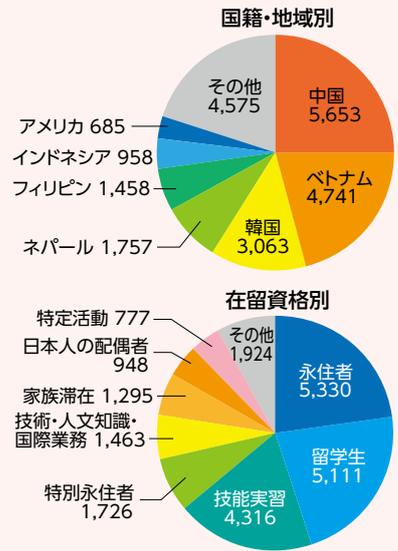
国籍地域別では多い方から中国、ベトナム、韓国と続いており順位に大きな変化はありませんが、多くの国で人数の減少が見られ、特に中国は500人ほど前年より減っています。

一方、ベトナム、ネパール、ミャンマーなど東南・南アジア地域の人数はこれまでの急増に比べると緩やかですが増えています。

在留資格別では昨年末に首位となった留学生在大幅に減少し、永住者が再び最多となりました。また、技能実習生の数も大きく減っています。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響で、帰国困難になった外国人に対し、元の在留資格(留学、技能実習、短期滞在等)から特定活動への切り替えが認められ、特定活動の人数は500人以上増の777人となりました。

(数字はすべて法務省在留外国人統計から)



外国人介護スタッフとともに 社会福祉法人慶和会特別養護老人ホーム石巻 花いちもんめ(石巻市)

現在、フィリピン人、インドネシア人、中国人など20名ほどが施設で働いています。国際結婚等で石巻地域に暮らしている方々のほか、特定技能の在留資格でフィリピンから来ている方々もいます。石巻地域は慢性的な人手不足で、震災後は特に人材確保が難しくなったことから、外国人材に目を向け、約3年前から受け入れを開始しています。

日本語で記録を書くことが難しい、敬語が使いこなせない、石巻特有の方言がわからないなど日本語に悪戦苦闘しているところも見られますが、明るく、献身的な姿勢が少しずつ利用者さんやご家族、施設スタッフに受け入れられていると感じています。

外国人スタッフ同士が交流する場を設け、かれらの思いや施設側への要望などを引き出しながら、ともに働く環境づくりに努めてまいりました。残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、こうした交流会は昨年来開催できておりません。他方、日本語や介護技術を学ぶ教室の設置についても計画を進めています。外国人スタッフのスキル向上や職場の環境整備もさることながら、せっかく縁あって石巻にお越しいただいた外国人のみなさんですから、石巻の魅力に触れ、たくさんのおきい出を残していただければと願っています。(花いちもんめ 生活相談員 小山梅夫様談)



利用者さんと外国人介護スタッフ



みやぎの国際活動団体

公益社団法人青年海外協力協会(JOCA東北)

青年海外協力協会(Japan Overseas Cooperative Association; JOCA)は、開発途上国の人々のために自分の持つ技術や経験を生かし活動してきた青年海外協力隊の帰国隊員を中心に組織されている、内閣府認定の公益社団法人です。青年海外協力隊の“体験者集団”として、国際協力、グローバル人材育成、地方創生、地域の国際化支援事業などを展開しています。

東日本大震災後、被災地の仮設住宅でのコミュニティづくりや見守り活動などの復興支援に取り組んできたJOCAは、岩沼版「生涯活躍のまち」を目指す「IWANUMA WAYプロジェクト」として、今年3月に子どもから高齢者まで障害の有無や国籍にかかわらず交流できる場となる複合型福祉施設「JOCA東北」を岩沼市に開設しました。様々な方が集い、交流が生まれる場所として、保育所、障害者就労支援、高齢者のデイサービス、健康増進施設、そば処、天然温泉(亀塚温泉)などがありますので、お気軽に足を運んでください。



2階のそば処では、プーンで生産された珍しいお蕎麦が食べられます

JOCA東北

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人の輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。

- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)
- ◎ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎ 本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.117
編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

